

えべつの未来づくりミーティング

～ 江別聴力障害者協会編 ～

令和4年4月27日（水） 江別市民会館2階21号室
午後2時～午後4時10分

1 江別市の「強み」「弱み」は

・強みは、JR野幌駅が新しくなって、バスの乗り換えが以前よりもしやすくなったこと。また、大雪でバスの運行が中止された際には、乗り場に見やすく表示されており、以前よりも運行に関する情報が伝わりやすくなった。改善してほしいことは、除排雪。もっと力を入れてもらえたら、バスもスムーズに運行できるのではないだろうか。除排雪については、江別聴力障害者協会の他の人からも同様の声があった。



・自分は、以前、札幌市に住んでいたが、長女が2歳の時に江別市に引っ越してきた。強みは、江別市は緑が多くて、広々としており、子育て環境が良いこと。引っ越してきた当時（25年前）、店は少なかったが、今は店が増えて、買い物が便利になった。弱みは、大雪のためバスが運休することや、それにもなって仕事が休みになったりすること。今年の4月にはバスの便数がさらに減ったので、雪の影響を受けない地下鉄があれば良いと思う。



・強みは、札幌市に近いこと。札幌市内に通勤していたので、便利だった。しかし、定年退職後、江別市のどこに何があるか分からず、証明写真が必要だった時も、江別市内のどこで撮影できるか分からなかった。結局、札幌市まで撮りに行った。このように、江別市内の店などの情報が分からず、困ることが多い。それから、バスの便数が少なくて困る。運転免許証を返納する方がこれから増えてくると思うが、返納後、今の状況だと困ると思う。

・雪の問題は自分も感じる。若い時は自分で除雪できたが、今は難しい。大雪の時には、車道と歩道の段差をなくして、平らにしてほしい。強みは、病院が近くて便利であること、札幌が近くて、いろいろな用事を済ませやすいところだと思う。

・強みとして、災害が少ないところが良いと思う。断水や停電の経験はあるが、比較的大きな災害にはこれまで遭っていない。ただし、災害が起こった時に避難するところが足りないのではないかと心配である。

・四つの大学があることは強み。手話講習会にも大学生が参加してくれている。札幌市から転入してきたが、江別市はほどよく田舎で、ほどよく都会だと思う。子どもを育てやすい環境だと思う。一方、卒業後、大学生が江別市外に転出し、定住しないことは弱みだと思う。また、札幌市と比較されることが多く、例えば、障がい者への各種助成は札幌市に比べると手厚いとは言い難い。そのほか、雪が多く、独居や障がい者の方の命に関わることにつながることも心配される。

・交通費の助成について、タクシーチケットとガソリンチケットの二つの交付方法があるが、ガソリンチケットの助成額がタクシーチケットに比べると安いと感じる。同じようにしてほしい。

2 江別市手話言語条例制定後の状況について

- ・江別市役所でも、手話ができる（覚えようとしている）職員が増えており、うれしい。自分の意識の変化としては、条例制定後、仲間同士や手話サークルなどで、積極的に手話を行うようになった。これまでは、健聴者に対して、自分から積極的に手話を用いることは少なかったが、例えば、お店のレジで店員さんに、あるいはバスやタクシーの運転手さんに「ありがとう」を手話で伝えている。



・江別市手話言語条例制定後、新型コロナウイルスが感染拡大してしまい、小学校や大学からの出前講座の依頼が減るなど、人に教えるために集まる機会が減っていることが残念。これからに期待したいと思う。そのほか、最近、テレビを観ていると、会見時などに手話通訳が同時に行われていることが多くなったと感じている。手話への関心がもっと高まると良いと思っている。江別市でも、会見時などに手話通訳を行ってほしい。

- ・（手話に関する基本条例を全国の町村として初めて施行した）新得町では、手話を広めようと（右のような）ポスターを作っている。このような、ちょっとした手話の仕方を表したものを、目に留まるところに貼ってほしい。
- ・新型コロナウイルスが感染拡大したことの影響は大きいと思うが、条例の普及がまだまだだと感じている。今後は、障がいの有無に関わらず、市民の皆さんに、江別市手話言語条例をより一層普及させるとともに、手話を学ぶことができる講習会や活動が広がれば良いと思っている。手話普及のためのポスターを、学校や病院、店などに貼ってもらう活動ができればと思っている。
- ・小学校だけではなく、校長会などでも手話に関する基本条例や手話を普及することができたら、児童・生徒にも伝わるのではないだろうか。



・江別市役所に入庁した時には、すでに江別市手話言語条例が制定されていたので変化は分からないが、入庁前は条例を知らなかった。江別市では、手話に関する職員研修が行われているほか、昨年は毎月一つ、（左のような）市民向け手話教室動画を公開している。応用編の動画作成も検討している。もっと周知していかなければならないと思っている。（市職員）

- ・江別市手話言語条例を普及させるためにも、手話に関する相談窓口や、関係団体や関係課、障がい者支援に関する知識を持った人が集まって、話し合えるような場があれば良いと思う。
- ・本条例を制定する際に、障がい者と江別市職員が実際に話し合う場が生まれたことで、障がい者を取り巻く現状への共通理解ができたと思う。手話のできる人がもっと必要なことも分かったと思う。小学校で、子どもたちに手話を教えているが、本当は、子どもたちから家族の皆さんにも伝えてほしいと思っているが、子どもたちで止まっているのではないかと感じている。例えば、朝、学校の先生が手話で挨拶するなど、もっと手話が広まるようになってほしいと思う。

3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・札幌に近いという強みを生かすために、地下鉄を整備すれば、人口が増えるのではないだろうか。そのほか、医療費の支援拡大、また、独りで家に住んでいる聴力障がい者も多いので、みんなで集まって話ができる場所があれば良いと思う。
- ・手話のできるスタッフがいるような、聴力障がい者用の入所施設もつくってほしい。江別市外にある、そのような施設は、満室で入所することができない。

- ・緊急通報装置は通話が必要なので、協力者が必要となるため、他の市町村でも聴力障がい者がひとりで利用できないことが問題になっているようだ。電子メールで119番通報を受け付ける「メール119番通報システム」もあるが、障がいの有無に関わらず、スマートフォンを使うことが苦手な人もいる。
- ・江別聴力障害者協会の他の人から、福祉バスを復活させてほしい、市民への広報については、できるだけFAX番号を入れてほしい、江別市立病院に手話通訳者が常駐するようにしてほしいという声があった。
- ・人口減少を抑制するには、卒業した大学生の就職先が江別市内にあったら良いのではないかなと思う。
- ・人口が減少する中でも、障がい者は増えている。そのような中、障がい者の雇用促進、アクティブシニアの活動促進、農福連携の推進などを進めていくべきだと思う。
- ・災害が発生した時には、手話通訳をできる人は限られているので、聴力障がい者が避難する場所を、一つにまとめて設置してもらえたら良いと思う。ただ、そのような緊急時は手話通訳者にも家族がいるので、手話通訳者に支援してもらうことは難しいとも思っている。手話通訳者への配慮が必要だと思う。
- ・手話通訳者の方は非常勤の市職員だが、待遇を良くしてほしい。正職員として雇用されることが望ましいと思う。

